

青森県におけるシカ被害の未然防止対策の担い手に対する意識調査 An attitude survey for wildlife management practitioners in Aomori toward the preventive measures against deer damage

○高松 利恵子* 島田 駿* 岡田 あゆみ* 落合 博之* 長利 洋* 服部 俊宏**

Rieko Takamatsu, Shun Shimada, Ayumi Okada, Hiroyuki Ochiai, Hiroshi Osari, Toshihiro Hattori

1. はじめに

近年、全国的なニホンジカ (*Cervus nippon* (以下, シカ)) の生息域拡大により、シカによる農林業への被害が問題となっている。シカの生息地の北限は岩手県五葉山付近とされていたが、最近では青森県への生息域北上が確認された。青森県では平成 26 年度から平成 27 年度にかけて目撃数が 45 頭から 114 頭に急増しており、被害としては平成 27 年度に初めて果樹園で 1 件報告された。これらから、青森県ではシカは侵入初期段階にあると考えられている。そこで青森県では被害が生じた後の対策ではなく、未然に防止することを目指して、鳥獣被害防止広域連携体制整備促進事業を進めているが、実際に被害が少ないことから、地域住民の危機意識は低いのが現状である。

東口ら (2016) は集落ぐるみのサルの追い払い未実施地域における意志決定過程には対象に応じた普及啓発により多様な住民の参加を獲得する必要があるとしている。羽山 (2017) は鳥獣被害対策には被害対策を担う人材育成が不可欠であることを述べており、多様な実施主体やその人材育成プログラムを示した。

青森県においても、未然防止対策の担い手の確保とその体制整備が重要となる。その一つの取り組みとして、シカの対策知識を有する担い手の育成に向けた研修会がある。本研究では青森県におけるシカによる被害の未然防止策を行う担い手となる市町村担当者・猟友会代表を対象に、防止策への取り組みの実態や危機感、実践力について明らかにする。

2. 方法

平成 28 年度青森県鳥獣被害防止対策地域連携会議が平成 28 年 10 月 4 日、5 日に県南地域 (下北地域を含む) と津軽地域で開催された。その会議に出席した市町村担当者、猟友会支部代表者、農業協同組合の職員等計 82 名に対しアンケート調査を行った。

3. 結果・考察

地域連絡会議への出席者に対する被害を起こした鳥獣種 (複数回答) のアンケート結果を Fig.1 に示した。被害を起こした獣種は「カラス・クマ・サル」が多く、「シカ」は少ない結果となった。津軽地域でサルによる被害が深刻なことは全国的にも知られているが、アンケート結果でもその結果が反映されていた。県全体としてはシカ以外の獣種による被害が多いため、シカに対する対策は優先順位の低さから取り組みにくいことが挙げられた。県南では上記以外にカモシカが多かったが、シカとカモシカの判別が難しいため、県南の被害獣種としてシカも考えるべきである。実際にシカを目撃したことがある回答数は県南の猟友会に多く (75%)、両地域とも市町村担当者は少なかった。これらは青森県がまとめている目撃情報で岩手県との県境 (県南地域) が多いことと猟友会は山に入る機会が多いことが関係していると言えた。

*北里大学獣医学部 School of Veterinary Medicine, Kitasato University **明治大学, School of Agriculture, Meiji University

キーワード: 獣害対策, ニホンジカ, 農村振興

Fig.2 と Fig.3 は津軽と県南地域におけるシカ対策としてできそうな対策（複数回答）を担い手別に示した結果である。内容としては左から担い手の負担が少ない順となっている。県南の市町村担当者はここで実施可能な「誘引物質の除去」が最も多く、それ以外の共同作業を必要とするものには選択が少なかった。これに対し津軽は「追い払い」や「予察捕獲」などの負担のかかるものに積極的に取り組む姿勢が見られた。これまでに経験した対策や研修会に希望する内容も同じような結果になったことから、津軽地域はサルの被害から対策経験が豊富なため、負担が多い対策にも積極的に考えられた。猟友会の結果には地域差はなく、「追い払い」「予察捕獲」と共に「新規狩猟者確保」が多い結果となった。

獣害対策研修会の参加経験についての質問では、地域に関係なく市町村担当者は「参加したことはない」が多いが、猟友会は津軽が「参加した」が多く、県南は「参加したことがない」「初めて知った」が多い結果となった。市町村担当者はその仕事柄、他の仕事と掛け持ちが多いこと、さらには異動により鳥獣害対策の経験や知識が乏しいことが示された。猟友会は市町村担当者よりも研修会の経験が豊富だが、県南地域では連携が取れず開催情報不足が問題点として挙げられた。

4. 結論

青森県のシカ被害の未然防止策を行う担い手とする市町村担当者の意識に地域差があり、県南地域よりも津軽地域はサル対策の経験から積極的かつ実践力があることがわかった。猟友会はシカ被害への危機感が市町村担当者より高く、また実践力も期待できることが示された。

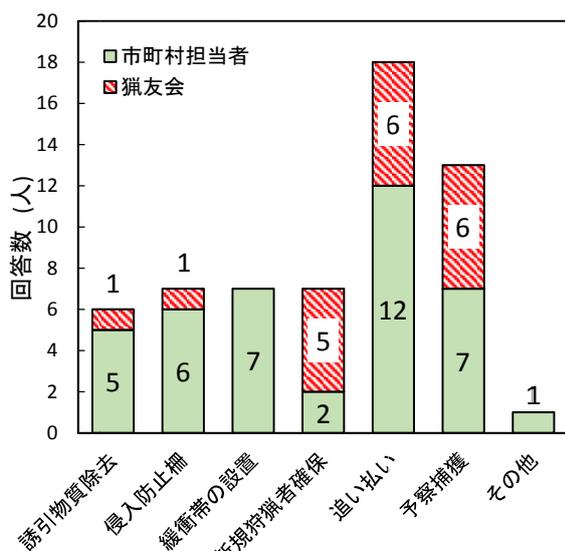


Fig.2 今後実施できそうな対策(津軽地域)
Probable measures in TSUGARU area
(複数回答)

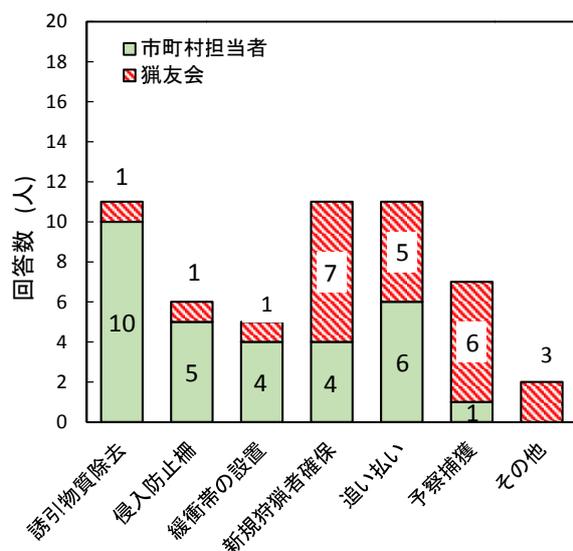


Fig.3 今後実施できそうな対策(県南地域)
Probable measures in KENNAN area
(複数回答)

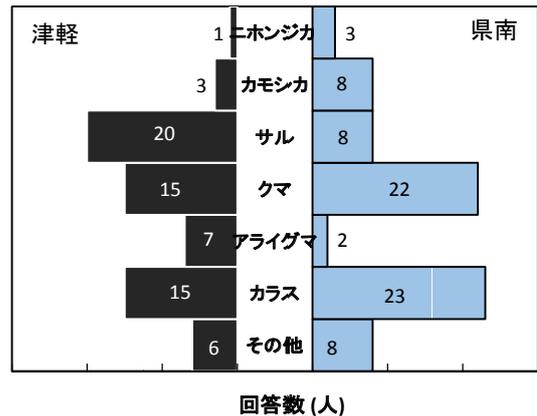


Fig.1 被害を起こした鳥獣種 (複数回答)
Bird and animal species causing damage